

大月町議会 だより



99号

12月定例会



12月議会

令和元年12月第5回大月町議会定例会は12月12日から17日までの会期6日間で開催され、補正予算10件、条例7件、陳情2件、指定管理2件、町道認定1件、特別委員会設置1件の計23件が提出され、全議案が承認・可決されました。一般質問は6名が登壇し執行部をたどしました。

もくじ

- P 2 成人式
- P 4 定例会
- P 6 条例等
- P 7 委員会活動
- P 8 一般質問
- P 15 みんなの広場
- P 16 こんにちは

表紙写真によせて



夢と希望を持ってガンバレ!!

新成人に聞いた
大月町に思うこと

いよたあこ
伊與田阿子さん

個人の夢をかなえる手
伝いをしてほしい。



かねまつ
兼松 圭悟さん

育ったところだから地
元がいい。



おめでとうございます。

これから大人の一員として、
ますます輝かしい人生になることを期待しています。



やまもと
山本 怜奈さん
働き口がない・遊ぶ場
所が少ない。



いのうえ
井上 紅滯さん
食べ物が旨い。



恒例の1月3日の
成人式は久し振りの
再会で賑わっていま
した。

若い力と英知で、
これからの大月の発
展に貢献されますよ
う、皆さんのご活躍
を心から期待してい
ます。

大月町議会議員一同

定例会

○一般会計補正予算(全員賛成)

問 統合保育所建築で伐採料125万円が補正されているが、当初予算で計上済みではないか。

答 当初予算は統合保育所の支障木の伐採委託料です。今回の補正は旧大月分校の裏斜面の支障木伐採予算です。

問 統合保育所の新設道路の公有財産購入費200万円と補償金200万円増額の理由は。

答 当初予算では道路位置が未決定のため概算予算で計上しました。補正予算では道路位置を決定し、土地購入額、木々伐採の損失補償額に不足が無いようにしました。



新設される町道保育所前線

令和元年度 12月補正予算

会計名		補正額	総額
一般会計		1億8153万円	61億2003万円
特別会計	特別養護老人ホーム	△184万円	3億5125万円
	国民健康保険	73万円	9億1076万円
	水道	308万円	2億4375万円
	介護保険	1355万円	8億4313万円
	後期高齢者医療	8万円	9821万円
	給与等集中処理	△378万円	9億7935万円
病院事業会計		△500万円	5億2275万円

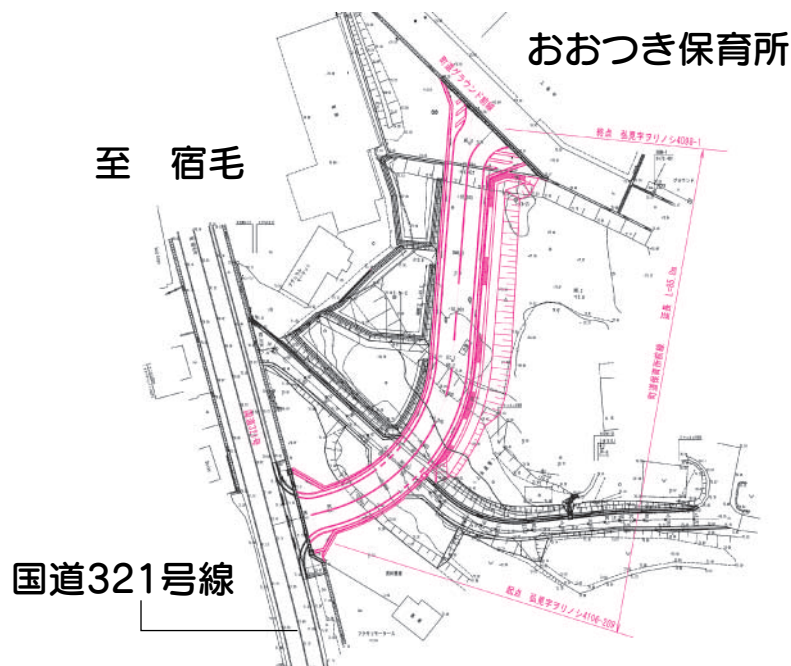
○町道の路線認定(全員賛成)

新たに開所する、おおつき保育所へ通じる道を町道として整備する。

路線名 保育所前線

起点 弘見字フリノシ4106-209

終点 弘見字フリノシ4098-1



○宿泊施設に係る指定管理者の指定 (全員賛成)

団体名称 株式会社 アバン
指定期間 令和2年4月1日より5年間

○エコロジーカーンプ場に係る指定管理者の指定 (賛成8・反対1)

団体名称 株式会社 アバン
指定期間 令和2年4月1日より5年間

エコロジーカーンプ場の指定管理について質疑が集中

問 アバンに決定の理由、NPO法人の不採用の理由は。

答 NPO法人大月町

地域資源活用協議会の計画は、観光資源等の有効利用することで高評価でした。しかし資金面と夜間等緊急事態への対応に不安が残るという審査結果のもと、現在指定管理を継続している株式会社アバンを候補者としました。

問 資金面での不安とは具体的にどのようなことか。

答 NPO法人大月町地域資源活用協議会は平成31年1月に設立した民間の団体です。

4月から運営を開始すると、4月、5月、

6月に大きな災害等が起こり利用者がなく場合の運営や経済面が大きな課題となりました。

問 自己資金や運営資金について要件に挙げたのか。

答 要件の中には定款と決算書の提出は求めていますが、自己資金や運営費については挙げていません。

問 総合評価ではNPO法人が高く、施設の有効活用や熱意もあり発展的であるのに資金面や夜の危機管理を理由に不採用にしている。

竜が浜キャンプ場は夜間の危機管理を不問にしているのに不公平ではないか。



自然の中でのびのびと

答 夜間の危機管理は採用の必要条件ではなく、ホテルベルリフの管理がアバンであれば、危機管理体制が十分とれるのではないかと判断です。

ために無償期間を設定しても良いのではないかと。

問 以前はベルリフの使用料を無償にしていた経緯がある。地元

答 株式会社アバンは発展的な事業計画とはいえませんが、経営ノウハウがあり、施設の安定運営と利用者の安全は計算できるとの審査報告のもと決定しました。



観光客に快適に過ごしてもらうために

報 告

○普通河川橘浦川河川災害復旧工事請負契約の変更に係る専決処分

【変更理由】

台風や秋雨前線の影響で施工できない日が続いたことにより、工期内の完成が見込めなくなったため。

【変更事項】

工期 令和元年6月20日から

令和2年1月31日(51日間延長)

○大月町立おおつき保育所新築工事請負契約の変更に係る専決処分

【変更理由】

採取土の試験結果、設計上のセメント配合では強度の確保が出来ない等があり仕様の変更をした。

【変更事項】

契約額 6億2601万円
(451万円増額)



完成間近の保育所

条 例 (全員承認)

○地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定

【内容】 会計年度任用職員(臨時職員やパートなど)が法律で定められたことにより条例の整備をした。

○会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定

【内容】 会計年度任用職員の報酬、費用弁償及び期末手当の額並びにその支給方法に関し、必要事項を定めた。

○一般職の職員の給与に関する条例の一部改正

○一般職に属する技術職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部改正

○大月町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

○町長等の給与及びその他の給与並びに旅費支給条例の一部改正

【内容】 以上の条例改正は、人事院勧告に基づき引き上げを行う。

○印鑑条例の一部を改正する条例

【内容】 成年被後見人等の制限に係る措置の適正化を図るための関係法律の整備に関する法律に基づき改正を行う。

意見書 (全員賛成)

陳情①は本会議で採択、②は総務厚生常任委員会に付託し採択しました。

この案を本会議で審議し、すべて原案の通り可決しました。

①加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求める意見書

②すべての子どもによりよい幼児教育・保育の無償化の実現を求める意見書

※意見書は関係省庁に送付しました。



補聴器によって健やかに

委員会報告

子育て支援充実へ

子育て支援条例制定調査特別委員会設置

【名称】

大月町子育て支援条例制定調査特別委員会

【設置目的】

安心して子育てができる環境を早急に整備し、子育てを支援する条例制定に向け調査・研究を行う。

【委員の定数】 9名（議長を除く全議員）

【委員長】 中平順三議員

【副委員長】 安岡邦彦議員



すくすく育つ環境を



空き家の見学をする移住希望者

移住対策（結審）

総務厚生常任委員会所管事務調査

〈調査目的〉

本町の課題である、少子高齢化や人口減少による地域活力の衰退に歯止めをかけ政策を立案するため、現状と課題を調査した。

〈課題〉

- ▽若い世代の子育て支援として、働く場所と落ち着いて住める居宅提供が課題。
- ▽利用可能な空き家は多数あるが、家主の財がそのまま残っている物件が多く、受入住宅確保のために荷物整理が課題。

〈提言〉

- ▽移住者向けの町営住宅を充実させるべき。
- ▽空き家活用のため、荷物置き場の設置や荷物処分の補助事業の実施。

体験型観光の振興（結審）

産業建設常任委員会所管事務調査

〈調査目的〉

地方を訪れる観光客が中山間地域の経済を潤し活性化につながっているといわれている。自然景観や体験型観光の資源が多く存在する本町の観光に対する取り組みを調査した。

〈提言〉

- ▽海岸地区の景観を生かした体験型観光に取り組んでいるが、宿泊施設や大型バスの利便性の向上、マグロ等の食と合わせたメニュー作り等誘致に対する受け入れ体制の強化が重要。

▽観光地連携計画が大月町発展につながる仕組みとなるよう早急に取り組むべき。



町の発展につながる観光振興を



迫力のある大洞山の風車 観光資源としての活用を

一般質問

山本恒和 議員（P 9）

- ・ 海洋教育の推進

安岡邦彦 議員（P 10）

- ・ 機構改革
- ・ 大洞山の観光整備計画

中平順三 議員（P 11）

- ・ 子育て支援
- ・ 課の再編

高野真司 議員（P 12）

- ・ 道の駅ふれあいパーク
- ・ 総合グラウンドトイレ

久米里志 議員（P 13）

- ・ 住民の移動手段
- ・ ファミリーサポートセンター設置の進捗状況

浦木秀雄 議員（P 14）

- ・ 障がい者にやさしい町づくり
- ・ 大洞山の観光開発

12月定例会の傍聴者は
14名でした。

次回定例会は **3月** の予定です。
傍聴のお問い合わせは
議会事務局までお願いします。
(電話：0880-73-1682)



山本 恒和議員

海洋教育の推進

「海洋の国・おおつき」へ

関係機関と協議／町長

海洋基本計画とは

漁業従事者・内航船員の高齢化に伴い、海洋事業が衰退する恐れがあるため、国は第3期海洋基本計画を平成30年に閣議決定した。国土交通省運輸局は令和元年8月に「海洋教育アイランド四国」構想を発表し、海洋教育の推進に力を入れている。

問 国は海洋教育の推進に力を入れ、小学校は令和2年から、中学校は令和3年から実施する計画がある。海洋教育では最先端を行く本町の経験と知識を活用し、大月小学校の知名度を高めるべきではないか。

岡田町長 海洋教育は、産業の振興や自然環境の観点から切り離せないものと考えています。教育内容・指導方法・その効果の分析が十分ではないので、関係機関・海洋研究機関などとの協議し、具体的にどのように進めるかを検討することが必要と考



おおつきの海を学ぶ子どもたち

えます。浜崎教育長 小学校三年生以上は総合学習70時間の中で海洋教育を実施しています。本町は海に囲まれた町なので海の資源や環境に関する教育を、町・県教育委員会、国土交通省、文部科学省と協議しながら推進したいと思っています。

問 海洋教育を進め大月の学校の教育環境を整備し、信頼感を高めることにより、若い世代の欠かせない教育課題を解消することになり、定住・移住政策への貢献ができるのではないか。

岡田町長 人口減少対策の一策になると理解していますし、取り組まなければならぬと考えます。義務教育の強化の中では、国への申請・県教育委員会の承認が必要であり、来年度からの実施は難しいです。まずは、拠点となる地域への取り組みが必要と考えます。

問 海洋基本計画「海洋教育アイランド四国」

構想は観光ビジョン「海洋の国・おおつき」として、大月独自の自然を生かした学術産業の道への発展が期待できると思うが、町長の考えは。

岡田町長 将来への夢を持ち実践することは必要と考えます。どのような方向に進めるか、具体的にどのようなかを教育・産業関係者と協議していきたいと考えます。



真剣に学ぶ課外授業

機構改革

課の統廃合を検討すべき

人事異動で対応／町長



安岡 邦彦議員

問 平成30年9月定例会において、機構改革委員会を立ち上げ大月町の方向性と将来の姿を描きながら、機構改革に取り組んでいきたいと答えているが、その進捗状況を聞く。

岡田町長 平成30年7月豪雨災害の復旧を本町の最優先課題として取り組んでおりますが、復旧はまだ道半ばであり機構改革の方向に至っておりません。今年度は大月町まち・ひと・しごと創生総合戦略の第2期計画を策定しており、令和2年度は第7次大月町総合振興計画の策定を行います。こうした計画を実現するため、どのような組織・執行体制で臨んでいくかということも視野に入れて検討していきます。



住民サービスの充実を

問 3月末をもって管理職6名が定年退職を迎え、組織の弱体化と住民サービスの低下が懸念される。

人口減少や少子高齢化、産業振興などの課題に迅速かつ的確に対応するため課の統廃合を検討すべきではないか。また若い職員との懇談も必要ではないか。

岡田町長 機構改革を行うのではなく、職員の適材適所、知識や経験、特性を生かした人事異動を行います。6人の管理職が退職しても次世代を担う管理職が生まれると思っています。職員との懇談ですが、若い職員の意見は重要なので新年度以降積極的に進めていきたいと考えています。

大洞山の観光整備計画

トイレと展望台は

令和3年度を目指す／町長

問 大洞山風力発電所の観光利用に伴う計画はおろか施設整備は何も行われていない。11月末までに2500人余りの人が施設を訪れているが、樹木が伸び見晴らしが非常に悪く座るところもないなどの指摘がある。

大月町観光地連携計画の中で整備が望まれる施設として掲げているがどのように進めていくのか。

岡田町長 ハード面の山頂のトイレと展望台は、グリーンパワーと設置場所や必要経費などについての協議を完了し、着手は令和3年度を目指しています。

ソフト面は観光客の満足度の向上を図るため、観光協会が中心となってガイドマニュアルの作成に取り組んでいきます。

まちづくり推進課長

樹木の伐採は、森林組合等に見積もりを依頼し必要経費は把握しています。平成30年7月の災害により着手していないのが現状です。

登り口の途中に公園を整備し、ベンチの設置も協議をしています。また、災害で公園整備予定地を残土処理場としたため、白紙となっていました。



中平 順三 議員

子育て支援

条例制定を

協議検討していく／町長

問 少子化対策の一環として「子育て支援条例」を制定し、少子化対策に取り組んでいる島根県海士町を参考に①結婚祝金②出産準備金③出生祝金④不妊治療助成金⑤転入児童生徒奨励金（18歳未満）等を取り入れ「大月版子育て支援条例」を制定すれば、少子高齢化、人口減少対策の一助となると思う。先憂後楽の考えのもと英断すべきだと思うが、町長の考えは。

岡田町長 子育て支援については、人口ビジョンに沿った考えのものと最重要課題と認識しています。現在、大月町子ども子育て支援計画第2期計画を策定中であり、安心して子どもを産み育てる環境を整備するよう協議検討しています。来年度当



子どもたちの笑い声の響く町に

初予算には、条例を制定するか判断し、さらなる子育て支援対策に取り組んでいく考えです。

問 ふるさと納税の納税者の目的別基金5項目の1つである「教育・子育て施策」残高3950万円余りを子育て支援基金に積み立てれば、財源の捻出は可能

と思われるが基金創設の考えはないか。

岡田町長 ふるさと応援基金条例の中で「教育・子育ての施策」「町長の町政全般に関する施策」の基金残高で財源は確保できると考えています。その財源などを総合的に判断し、3月の当初予算で報告をしたいと思っています。

課の再編

まち課の再編は

今の組織体制で／町長



手続きに訪れる町民

問 まちづくり推進課が平成28年度に設置され、その業務分掌は条例にもあるように、総務課及び産業振興課がスリム化され、両課を併用していると思われるが、再編の考えは。

岡田町長 まちづくり推進課の業務分掌は、総務課が担当していた企画部門を重点的にとすることで配置したところですが、元々の課に戻すと受け皿がない

係上、今の組織体制で対応したいと考えています。

問 今年度、6人もの管理職が退職され、2人が再任用を申請しているというが、再任用すればどのような役職になるのか身分保障について聞く。

岡田町長 役職を解き、本町の再任用規定で対応していきます。

道の駅ふれあいパーク

施設改装スケジュールは

令和4年度を目指す／町長



高野 真司 議員

問 平成30年度に「ふれあいパーク・大月」多機能拠点化基本計画が策定されているが、昨年の豪雨災害で事業着手が先送りとなっている。今後のスケジュールは。

岡田町長 災害復旧関連工事の進捗状況を見ると、ふれあい市の撤去工事、駐車場の整備を令和4年度に実施し、第1期整備工事の完了を目指しています。センター棟の建築を中心とする第2期整備工事は令和5年度以降になると思いますが、計画策定から数年経過しているため計画自体の見直しが必要と考えます。

基本計画を軸として再検討し、財政状況を踏まえながら取り組んでいきたいと考えています。



多機能拠点化計画の完成イメージ図

イベント時は役場からの送迎バスなどで対応する予定です。

また、納品者の駐車スペースも確保するよう検討していきます。

問 販売金額目標を整備事業完了から5年後には、年間販売金額2億5千万円に設定している根拠は。

まちづくり推進課長 近年の道の駅利用者と販売金額は徐々に上昇傾向にあります。リニューアル計画で多機能化し、新たな需要の掘り起こしと、段階的な整備による客の増加や、新たな事業モデルに取り組み、5年間の年平均増加率を4%と目標設定しています。

運営体系の強化や商品の確保など多くの課題がありますが、道の駅を核とする産業振興や

雇用の創出を目指し、目標達成に向け取り組んでいきます。

問 臨時的な雇用では若い人は結婚、子育てや教育などができない。身分保障のある職員採用に改善し、働き甲斐のある職場にすることで道の駅基本構想を達成できるのではないかと。

岡田町長 施設の運営の在り方、職員待遇などの案件については、ふるさと振興公社の理事会、評議委員会などで、意見も踏まえて検討していきます。



働き甲斐のある職場に

総合グラウンドトイレ

計画の進捗状況は

複合施設として検討／教育長

問 総合グラウンドのトイレは、周辺の施設と合わせて総合的なトイレにする計画の進捗状況は。

浜崎教育長 整備計画を元から見直し、老朽化したグラウンド管理棟、大月分校体育施設と合わせて、複合施設として今後検討していきます。



久米 里志 議員

住民の移動手段

移動サービスの充実を

向上に努める／町長

岡田町長 高齢化に伴う免許返納制度への対応などを踏まえて、5年先、10年先の公共交通の在り方を地域公共交通会議で協議し計画策定を行っています。来年度には計画に沿って、弘見周辺を巡回する町バスなどの実証運行を行いながら、住民の要望に叶う持続可能なサービスの向上を図っていきます。

問 運転免許の返納者や高齢者、また身体の不自由な方など、これからバス利用する人々の移動手段が、現在の公共交通やバス路線では利便性が悪い。利便性の良くなるバス路線の変更や、小回りの利く8人乗り程度の車で、輸送回数を増やす移動サービスなどはできないか。

岡田町長 高齡化に伴う免許返納制度への対応などを踏まえて、5年先、10年先の公共交通の在り方を地域公共交通会議で協議し計画策定を行っています。来年度には計画に沿って、弘見周辺を巡回する町バスなどの実証運行を行いながら、住民の要望に叶う持続可能なサービスの向上を図っていきます。



10年先の公共交通の在り方を検討

ファミリーサポートセンター

運営方法は

隙間なく推進

／まちづくり推進課長

問 ファミリーサポートセンターの設立を9月補正予算で計上しているが、その後の進捗状況、また対象者の範囲や経営方法はどのようになるのか。

まちづくり推進課長

予算の執行状況は、事業の中心となるアドバイザーの募集を行う段階となっています。

対象者の範囲は、0歳から小学生までの子どもを対象とし、様々な子育て保育サービス等の隙間を補完することを目的に取り組んでいきます。事務局は教育委員会に設置し、町民福祉課、保険介護課などと情報共有し隙間のない子育て支援の推進に努めていきます。



ほっとセンターで遊ぶ子どもたち

障がい者にやさしい町づくり

窓口一本化で整備体制を

やさしい町づくりをめざす／町長



浦木 秀雄 議員

問 障がい者にやさしい町づくりをどのようなようにすすめているか。

岡田町長 ①思いやり②日々の暮らしを支える体制づくり③自立と社会参加の基盤作りをすすめています。

問 引きこもりを中心に、介護、困窮といった複合的な問題を抱えている家庭に対応するため、厚生労働省は、窓口一本化をし市区町村の体制整備を促す方針を決めた。大月町でも支援体制を整えていくべきではないか。

町民福祉課長 町長が言いましたように今後、各課、社協、民生が一体化でき、相談窓口がうまく活用できるように努力していきたいと思っています。



ほっとセンターに簡易洋式トイレを

問 ほっとセンターでは、洋式トイレが1つしかなく、しかも、女性トイレの中に作られる男性は使えない。男性トイレにも洋式トイレを作るべきではないか。

岡田町長 和式トイレは使いにくく多くの人が外で順番待ちをしている。和式トイレを簡易洋式トイレに改善すべきではないか。

より洋式トイレの方が

今の年齢構成から見ても必要だと思えます。しかし、構造上設置が難しいため、改善に向けて社協と話し合いをさせていただきます。

問 各地区の集会所のトイレを簡易洋式トイレにすべきではないか。

岡田町長 地区長から事情を聴き、申請をいただいで、年次計画をもって解決していきたいと思っています。

大洞山観光開発

予算はいつ計上するのか

令和3年度に計上／町長

問 大洞山の展望台とトイレの予算はいつ計上し、どれだけになる見込みか。

岡田町長 令和3年度に予算を計上します。まちづくり推進課長

展望台は70平米、高さ5mで約3300万円、トイレは可搬設置型循環式水洗トイレで約1850万円の見積もりが出ています。

問 可能な限り許可無く入山でき、道の駅でも開放日を知らせるべきではないか。

岡田町長 開放についてはさらに詰めていきたいと思っています。まちづくり推進課長

開放日は、道の駅で示すように指示しますが、より良いものにするために、観光協会と継続して話しあっていくきます。



展望台の設置が待たれる大洞山

みんなの 広 場 私 の 想 い

まつした
松下

すみお
澄男

さん（龍ヶ迫）

私は四人姉弟の長男として龍ヶ迫で生まれ、段々畑の石垣に反射する陽の光と、海からの潮風に包まれて育った。

若い頃は海上



自衛隊の呉所属の護衛艦に乗艦。その後は遠洋漁業のマグロ船に乗り組み、一度出航すると10〜11カ月は日本本土を踏むことはなかった。

勤めあげた仕事を引退し単身で帰郷した。魚釣りが大好きで何れは故郷での釣り三昧を夢見ていた。

28歳の時、中村の職業訓練所で技術を修得し、岡山で建築業に従事、その地で結婚し四男一女に恵まれたが、妻が42歳で早世したため、私の母が幼き子供達を育ててくれた。

大好きな釣りは実現できたが、周囲には人が少なくなり、至る所に空き家が目立つ。何かをやるうとしても人がいなくては何もできない。

その母へ恩返しするために60歳の時、長く

私たちが生まれ育った懐かしの故郷・龍ヶ迫や大月の町は何処へ行ってしまったのか。



なかひら
中平

ふみこ
文子

さん（芝）

私はミニバイクに乗って農家の仕事に行っています。冬場の農閑期には夫と2人でひがしやまや芋アメを作っています。注文もあります。むろ板に流した

アメが冷めないうちに私が手早く包丁で切っています。そのアメを夫がハサミで2センチ5ミリ角に切り、きな粉を敷いたむろ板に丁寧に並べていきます。黙っていても、二人の呼吸は自然に合います。

今一番気がかりなことは、夫が高齢のため、子供たちからの勧めで最近運転免許証を返納したので、病院や買い物など2人での移動手段がとても不便になりました。また、緊急時などが特に不安に思います。ハイヤーや福祉タクシーを利用しているが経費もかかります。役場で補助金制度や、もっと利便性のよい移動手段をお願いしたいです。

こんにちは

女手ひとつで40年

島本 きみ さん(71歳)



よくぞいじまで

柏島で食堂「お好みきみ」を開いている島本きみさんを訪ねた。

どうして食堂を

年を取った母親を大阪から柏島に連れて帰ってね。30歳のときやった。食うもんやったらすたらんと思って食堂を始めたがよ。

なぜ「お好みきみ」

お好み焼きを焼いている店じゃあないがぜ。お客さんの好みに応じて料理を作るから「お好み」としたがぜ。

当時の様子は

そうよねえ。柏島の人口は9000人、子どもは90人くらいいたろ

苦しい頃は

おいしいねえと喜んでもらえるのがこの商売。苦しい、やめろうと思ったことはないねえ。みんなに助けられてここまでできた。ようやくたという思いやねえ。

きみ食堂では、10年に一度、節目を祝ってお祝いをしてきた。今年も地域の人に支えられて盛大に40周年を祝った。店内には、歴史を語るたくさんの写真が飾られていた。



40周年餅文字と
談笑する人たち

「女手ひとつでここまでよう頑張ったねえ」と声をかけると、きみさんはにっこり笑った。

(取材・浦木秀雄)

編集後記

組織が一丸となって会社や社会の成長を目指していたバブル期以前に比べ、モノがあふれ、デジタル技術の発展によって便利になった現代では、人は組織ではなく個人の幸せを追求するような傾向にあるようだ。こうした社会の変化によって、世代間の価値観は大きく異なっている。今も昔も人無くして社会は成立しない。

多様化する社会の中で、自分にはない新しい価値観と出会い理解すること、人生をより豊かにすることができるのではないだろうか。

(野村満久)

議会広報常任委員会

委員長 山本 恒和
副委員長 安原 明彦
委員 浦木 秀雄
委員 野村 満久
委員 久米 里志